



## 演劇部の合宿

【難易度】：4

【期限】：連休3日間。休日なので、1日2シーンとなる（26ページ参照）。

【雰囲気】：演劇×合宿×怪奇現象

【トーン】：PG12

## 【状況】

目標：白樺ホールに起こる怪奇現象の内容を調査してまとめ、発表する。

白樺ホールは、〔生徒〕たちが通う学校から少し離れたところに位置し、その利用料は、地区内の学生団体が使用する際には宿泊も含めて特別に割引されるため、学内で合宿や公演をする際によく利用されている。今回の演劇部も連休を利用して、ここで合宿し、劇の練習をする。

静かな丘の上に建つ、古びた木々に囲まれた建物で、ステージを中心とする白く塗られた壁の演劇用ホールに、後から作られたレンガ造りの宿泊施設が廊下でつながる形で接続している。しかし、白樺ホールにはもう1つの顔があった。ここで合宿をした者は奇妙な現象に遭遇することがあるという。〔生徒〕は演劇部の合宿を手伝うという条件で、宿泊込みでの合宿参加と、合間の時間で調査をすることを許可された。

ホール側にはステージや控室、用具室があり、宿泊施設の方には各部屋や食堂などがあるようだ。また来るときに見えたのだが、施設の側には公園があり、木製ベンチがいくつか置かれていた。

季節の花で彩<sup>いろど</sup>られたアーチをくぐり、白樺ホールのエントランスにたどり着いた。演劇部の部長と顧問の先生が受付で登録をしていて忙しそうだ。そこに、1人の【脇役】が話しかけてきた。その人物は、この合宿に参加する許可を得る際に、手助けをしてもらった人物だ。【班長】がその人物を演じよう。

## 【今いる場所】

エントランス、受付付近。

## 【問い】

いまの季節はいつごろだろうか。もし好みの季節に3連休がない場合は、月曜は学校側が決めた振り替えの休日、あるいは架空の祝日ということにするとよい。

## ♥ 【場所】

### A : ステージ

ここは演劇部員たちが本番練習や公演を行う場所だ。観客席からは見えないところに、舞台袖や照明ブース、音響機材が配置されている。ステージは大きな平台で、床は堅固な木製である。緞帳は古びているものの、十分に威厳と美しさを保っている。

【演出】：ここにいて観劇していると、舞台上で演技している役者が、自分のセリフではなく別の言葉を口にするミスがたまに起きる。それはどのような言葉か、その言葉を言った役者はどんな反応をしているか。

### 2 : 客席

古びた座席が並ぶ客席。年月を経た木製の座席が続く。座面や肘掛けには使い込まれた痕跡があり、それぞれの座席には、長い年月の証とも言える傷、落書きが刻まれている。

【演出】：声が聞こえてきた。それは何と言っているか。

### 3 : ステージ上のキャットウォーク

ステージの上方に設置された狭い通路。ここから舞台の照明や音響機材を操作したり、演技者たちを見守ったりすることができる。木製の床は古びていて、歩くと軽く音が響く。〔生徒〕はここで舞台の裏側を覗け、舞台上の出来事を客席とは異なる角度から眺めることができる。

【演出】：ステージでは劇の練習が行われている。〔生徒〕はステージを見つめている人影に気づく。それはどのような姿なのか、どんな様子でステージを見つめているか。

### 4 : 控室

演劇部員たちが休憩や練習の合間に使う部屋。鏡台や化粧台があり、衣装やメイク道具が散らばっている。様々な衣装を着た役者たちが忙しく行きかうため、誰が誰やらわからなくなる。

【演出】：メイクと衣装のせいで、ぱっと見、誰だかわからない役者を控室で見かける。その役者はすぐにいなくなってしまう。あとから確かめようとしても、それが誰かわからない。その役者はどんな恰好をしていたのか、印象に残ったのはなぜか。

### 5 : 手洗い場

劇場そばの手洗い場。合宿所の手洗い場が混んでいる時はこちらに来ることもある。壁は古びたタイルで覆われ、その色褪せた表情が時の流れを物語っている。鏡は装飾が施された縁に囲まれていて、その表面には小さなひび割れやくすみが見られる。

【演出】：手洗い場において鏡を見てみると、何か気が付く。何が気になったのか。

## 6：合宿所の食堂

大きなテーブルと椅子が並ぶ食堂。窓からは外の景色が見え、日中は陽光が差し込む。木製のテーブルは年月を経て温かみを帯び、使い込まれた痕跡がある。〔生徒〕はここで食事を演劇部の面々と共にし、会話を交わすことができる。

**【演出】**：ここでみんなと一緒に食事をとり、談笑し、打ち解けることができる。ここで何を食べたのか、一緒に食事した相手に対してどんな感情を抱いたのだろうか。

## 7：倉庫

倉庫には、舞台やイベントのための機材が保管されている。壁には棚が設けられていて、そこに大道具が整理されて収納されている。衣装はクローゼットに、小道具や手持ち小物などは、引き出しにそれぞれしまわれている。

**【演出】**：倉庫を見ていると、印象に残るものを発見する。なぜ、それは印象に残ったのか。それは何か、どのような状態か。

## 8：寝泊まり用の部屋

合宿に来た生徒たちが宿泊するための部屋。ベッドや小さな書き物用の机と椅子が備えられている。生徒たちはここで夜を過ごしたり、休息を取ったりすることができる。壁には昔の合宿の様子を撮影した写真が額に入れられて飾られている。

**【演出】**：飾られている写真を眺めていると、その中に気になる写真を発見する。それはどんな写真か。

## 9：橋のある公園

白樺ホールのすぐ近くにある公園は、静けさと自然の美しさが共存する場所だ。公園の入口には、歓迎するかのように木々が並び、石畳の小道はゆったりとした散歩やジョギングに最適だ。中にある小さな橋で飾られた池も趣深い。近くにあるので、木々の合間から白樺ホールや合宿所の窓や壁が見える。生徒もたまに外に出て息抜きをしつつ、この公園でセリフの練習を行ったりしている。

**【演出】**：何か気になるものを見たり、聞いたりする。それは何か、またそれを感じたのは、公園内のどこに注意を向けた時だろうか、あるいはやや離れたところに見える白樺ホールや合宿所の方に注意を向けた時だろうか。

## 10：ホール入り口

白樺ホールの敷地の入り口には、季節の花で彩られたアーチがある。このアーチは、訪れる人々にとって、歴史と伝統のあるこの場所への期待を高める象徴的な存在だ。ホールの入り口自体も、格式を感じさせるデザインで、扉の上にあるホールのロゴと建設年が記された銘板が、訪れる人々に感銘を与えている。

**【演出】**：入り口の近くにいると、ホールに入りたいとしようとする人や、ホールの周りを散歩する人と出会う。それは誰か、その人は外に出ようとしているのか、中に入ろうとしているのか、散歩しているのか、何か用件があるのか。

◆ 【現象】

A

- » 鏡あるいは窓ガラスに映る人影
- » 夜中、どこからか聞こえてくる子供の笑い声
- » 照明が勝手に点滅する

2

- » 劇を演じている人の影が影絵のように見えるが、行ってみると誰もいない
- » 誰のものかわからない足跡
- » 壁を規則的に叩く音

3

- » ノートや台本に書き込まれている謎のメッセージ
- » 視線を感じるがそちらを見ても誰もいない
- » 階段から響いてくる足音

4

- » 突然聞こえてくる拍手
- » 写真を撮ると知らない人物と一緒に写っている
- » 舞台セットの中に閉じ込められる

5

- » シャワーや水道に血が混じっている
- » 気味が悪い人形が吊るされているのを見つけた
- » 椅子や客席に座っている影

6

- » 小道具についている血
- » 電気が一斉に消える
- » 急に開かなくなる扉

7

- » 台本が勝手にめくれ、何かを示唆するようなページが開かれる
- » ビデオカメラに写っている顔が奇妙に歪んでいる
- » 何も無いのに物が落ちて音がする

8

- » 急激に寒くなる
- » 何かが突然上から落ちてくる
- » どこからか台詞を練習する声が聞こえてくる

9

- » 見知らぬ古い衣装がクローゼットの中に入っている
- » 後ろから首を絞められる
- » 照明が指示なしに操作される

10

- » キャットウォークの方から悲鳴が聞こえる
- » 窓ガラスに外側から付けられた手形
- » 気付くと体に引っ掻かれたような跡がついている

## ♣ 【手がかり】

## A

- » 補修された跡のある壁
- » みんなが持っているのとは異なった台詞が書かれている台本
- » 4分の1ほどが破れて無くなっている写真

## 2

- » 庭の木や机などに刻まれたイニシャル
- » 演劇理論について書き留めたノート
- » 紐が切れて落ちていたお守り

## 3

- » 投かんされなかった手紙
- » 使った跡があるメイク道具
- » 額の裏につけられているお札

## 4

- » 以前の劇のパンフレット
- » 今は使われていない古い井戸
- » 家具やベッドの下から出てきたレシート

## 5

- » 照明機材に貼られていたメモ
- » 落ちていた特徴的な柄のボタン
- » QRコードだけが書かれている名刺

## 6

- » 一か所だけ掘り返されている花壇
- » 大道具の内側に書かれた落書き
- » 刺すと刃がひっこむオモチャのナイフ

## 7

- » 長い髪のかつら
- » 特定の場所で吠えたり唸ったりする犬
- » 過去の新聞記事のコピー

## 8

- » キーホルダー付きの鍵
- » 少し上の世代の卒業アルバム
- » 棚の最上段の奥にあった箱

## 9

- » 誰かに似ているような気がする肖像画
- » 白樺ホールの写真が貼り付けられたケースに入っているCD-R
- » 何かの信号のように定期的に聞こえる物音

## 10

- » 奇妙なところに残っている足跡
- » アドレスが書かれたイラスト付きの付箋
- » どこからか聞こえてきた劇の台詞

♠ 【脇役】

こばやし  
**A：小林 あやか**

女性。3年生。演劇部部長。熱狂的な演劇愛好家で、リーダーシップもある。演劇部の成功を心から願っている。部員たちに対し厳しい一方で、部員たちとの関係を大切にしたいとも思っている。劇の完成度を上げようとする、和気あいあいとした雰囲気は減ってしまうジレンマが彼女を悩ませている。

「私たちの作品が観客に感動を与え、心に残るものになることを願っています」

「1つの作品を作り上げるために、それぞれが持ち味を活かして協力しなきゃいけないの。それをわかってほしい」

にかいどう せいいち  
**2：二階堂 誠一**

男性。3年生。演劇部。演技力の高さから副部長に選ばれた。演技がうまいことを自覚しているが、時にそれが過度に自己評価につながることもある。自分の能力が高いため、演技が下手な者にイラつくことがあり、また指導するのも下手。

「俺の演技を見て、みんなも刺激を受けてくれるといいな」

「そんな演技でステージに立つつもりか？ もっと練習しろ！」

ひのりお  
**3：日野 莉緒**

女性。2年生。演劇部。演技の才能はあるが、さぼり癖があり、あまり熱心ではない。不本意ながら合宿には来たものの、練習を抜けてスマホを見ながら、さぼっていることも多い。

「合宿だからって、そんなに熱心にやらなくてもいいんじゃない？」

「そういえばこの間、偶然聞いちゃっただけだよ……」

ささき じゅん  
**4：佐々木 潤**

男性。2年生。演劇部。照明を操作する才能に秀でていて、その高い技術と繊細なセンスで舞台の雰囲気や演出に大きく貢献している。一方で、彼自身は舞台に立つことへ熱い思いを持っていて、演技の才能には恵まれていないことにやるせなさを感じている。

「照明係は楽しいかって？ いや、別に楽しくはないな、だが、面白くはある」

「変なものを見たこと……？ 無くはないんだが……」

つむら ちづ  
**5：津村 千都**

女性。1年生。演劇部。昔、この学校の演劇部に所属していた5歳上の姉がいる。姉が舞台に立つ姿を見て、自分も舞台に立ちたいと考え、入部した。声が小さいので、まずは大きな声が出せるよう指導を受けている。

「姉が舞台に立つ姿を見て、いつか私もあんなふうに輝きたいと思ったんです」

「声量だけでなく、心の声も大切に。私はそう教わりました」

<sup>あきかわ さいと</sup>  
**6：秋川 蔡都**

男性。1年生。演劇部。遅くまで作業をしていた時に奇妙な影を見たと言っている。少し怯えた様子。工作好きで手先が器用なため、小道具の作成や準備も担当している。

「手先が器用だから、小道具の作成は得意なんだ。でも、最近はちよつと怖いことがあつて……」  
 「本当に見たんだ。不気味な感じがしたんだよ」

<sup>かとう おおぞら</sup>  
**7：加藤 大空**

男性。20代後半。演劇部顧問。今年から顧問を任せられた教師。演劇には詳しくないから、生徒の自主性を尊重すると公言している。合宿所やステージに幽霊が出るといふ噂に対しては、そんなものは何かを見間違えたんだらう、気のせいだと回答する。

「劇のことについては部長に聞いてみてくれ。彼女の方が詳しいから」  
 「あくまでこれは劇のための合宿だ。羽目を外さないように」

<sup>よしかわ かなこ</sup>  
**8：吉川 香菜子**

女性。30代中盤。合宿施設の職員。10年弱ほどこの施設で働いている。食堂で食事を作り、宿泊施設の管理をするのが仕事。趣味は料理で、スイーツを作って生徒に振る舞うこともある。

「食事の準備ができましたよ。皆さん、食堂へどうぞ。今日はお菓子もありますよ」  
 「幽霊の噂ですか？ 聞いたことありますけど、私は見たことありませんねえ」

<sup>なかじま かおり</sup>  
**9：中島 香**

女性。20代前半。アルバイトの清掃担当者。テンションがやけに高い時がある。小説家志望でいろいろネタを探しているため、出会い方によっては何か有益な情報を持っているかもしれない。

「ああ、参考になるう！ 学校、真面目に行かなかつたから、小説書く時、描写に困るんですよ」  
 「こんなことが起きた原因についてどう思うか……ですか？ 興味ないんで調べてないですよ。オチは私が！ 自分で書くべきものなので！」

<sup>わたべ まこと</sup>  
**10：渡部 真**

男性。大学生。近所に住んでいる。タロウという柴犬を飼っていて、合宿所の周辺をよく散歩させている。タロウは合宿所の側に来ると、なぜか吠えたり唸ったりする。

「すみません、ここに来るとなんか唸つちゃうんですよ、ぼら、タロウ行くよ」  
 「この建物について何か知っていることですか？ うーん……、あ、そういえば」